

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階) ・ 実施段階)

中等1

福岡県立輝翔館中等教育学校長 印

学校運営計画（4月）		評価（3月）		
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 6年間一貫した系統的な指導で教育活動に連続性を持たせ、大学進学ができる学力をつけます。 礼節を重んじた指導を土台として、規範意識や望ましい社会人としての素養をはぐくみます。 上級学校、地域・産業界と連携・協力して、自発的・能動的な夢づくり、知的チャレンジ体験活動で個性を伸ばす教育を行います。 情報教育や語学力を駆使して表現力を伸ばし、コミュニケーションを重視した授業を展開します。 「守・破・離」の教育、「自ら考える」教育活動を組み、志をもって意欲的に学ぶ生徒を育成します。 			
昨年度の成果と課題	<p>31年度重点目標</p> <p>具体的目標</p>			
<p>学校創立16年目を迎える。今日まで本校発展のため鋭意努力されてきた関係各位や在校された職員の意志を継ぎ、生徒を中心にした積極的な教育活動を展開し、地域に根ざした県内唯一の中等教育学校として、さらに存在感を高めていかなければならない。</p> <p>これまでの本校の教育活動の成果から、本校に対する地域の信頼は格段に高まっている。しかし、本校が解決しなければならない大きな課題は、依然として生徒募集である。地域への貢献活動及び広報活動を積極的に推進し、地域の期待に応える開かれた学校づくりが重要である。また、広報活動については、小学生や保護者が本校を直接体験する機会を充実させるとともに、部活動を通しての情報発信を生徒募集につなげていく。</p>	<p>スローガン「メリットの最大化、デメリットの最小化」</p> <ol style="list-style-type: none"> ICT機器を活用しながらALの視点に基づく授業改善を推進する。そのことにより、思考力・判断力・表現力の強化、主体的・対話的で深い学びを実現する。 成年年齢の引き下げを見据え、前期課程・後期課程それぞれの発達段階に応じた的確な指導目標を設定し、効果的な指導方法を実践する。 生徒の自主的活動の一層の活性化を図る。 前期課程生徒と後期課程生徒の交流により生徒集団の持つ自己教育力を高める。 寮運営を円滑に実施し、寮生活の充実に取り組む。 志願者数増加へ向けて広報活動を強化・改善し、志願倍率の向上につなげる。 「チーム」と「ライン」による徹底したリスク管理を継続する。また、危機管理マニュアルや自然災害時の対応について適時更新改善し、周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査にALの視点に基づく記述・論述式の問題を必ず出題するなどして、取組の充実を図る。主体的・対話的で深い学びを、新学習指導要領では単元や題材のまとまりにおいて位置づけることになることを踏まえ、現行教育課程における各教科・科目等のいくつかの単元について、モデルとなる指導計画（観点別評価を含む）やルーブリックを作成し、授業を実施する。 各校務分掌（教務課学習班、生徒指導班、進路指導班など）において、前期課程・後期課程ごとに目標を設定し、それぞれ効果的な具体的方策を採り、実践する。特に生徒指導については前期・後期ごとに指導基準を変えるなどして、後期生徒の意識を高める。今春未来手帳やClassi（クラッシー）を活用し、日々の学習内容や振り返りを活動履歴として蓄積し、個に応じた指導を充実させ、生徒の自己指導能力を向上させる。Classi（クラッシー）の自学教材を活用し、3年次から4年次末までに中学レベルの学習内容の完全習得を図る。教育課程の実施状況については、学校評価と関連付けながら評価や改善を計画的に実施する。 生徒会活動、委員会活動、ボランティア活動、知的チャレンジ活動、その他自主的活動により多くの生徒が積極的に取り組むよう工夫し、奨励する。 学校行事に加え、キャリア形成のための活動や講話等で前期課程生徒と後期課程生徒の効果的な交流を仕組む。 施設として環境の整った藤波輝翔館寮を本校教育の魅力として発信できるよう、生徒の自治活動やICT環境の整備を進め、寮生活の充実を図る。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
総務	学校行事等を円滑に、かつ正確に運営する。	各分掌・学年等との連絡・調整を行い、業務分担当内者内で連携を図る。 各行事毎にアンケート等による反省や見直しを行い、次年度の改善につなげる。		
	広報活動の充実を図る。	計画的に学校説明会、募集要項説明会を実施し、平成31年度入学選抜の志願倍率2.0を目指す。 小学校・塾・クラブチームへの訪問を定期的に行い、広報活動の充実を図る。 地域への協力を仰ぎ、ポスターなどのPRを積極的に行い、志願者数の増加を図る。		
	情報発信の活性化を図る。	教育活動等の記録や学校案内のデータを掲載する等、ホームページの充実を図る。 生徒や職員のデータ等の整理・更新・管理を確実に行う。		
	学力向上のための更なる授業改善	主体的・対話的で深い学びに繋がるよう授業を工夫し、生徒の学習意欲を促す。 相互授業参観期間等を利用し、様々な授業のメリットを共有する。 授業アンケートを2回実施して、生徒側からの視点もとり入れた授業改善を促す。		
教務	基礎・基本を定着させる学習指導と大学入試改革への対応	前期課程では、既習事項の復習をより重点的に実施する授業を工夫し、生徒たちの自己肯定感を促す。		
		前期課程では、各教科との調整を図りながら宿題や復習課題を工夫し、自主的な学習態度の育成と学習習慣の確立を促す。		
		後期課程では進路指導と連携して学習意欲を向上させ、平均3時間以上の家庭学習習慣の確立を図る。		
		後期課程では、様々な授業手法の創意工夫を通して、学ぶことの楽しさを実感させ、主体的に学ぼうとする態度を養う。		
教務業務の円滑な遂行	後期課程の定期考査では高大接続改革も視野に入れた論述式試験問題の作成を推進する。			
	常に先を見据えた業務の運営を実践する。			
	各業務の担当者を中心に、機能的な組織作りと運営を行う。 各業務内容の記録、保存、整理を適切に行い、資料や業務の引き継ぎの円滑な遂行を図る。 新学習指導要領の全面実施に向け、適宜様々な変更を加えていく。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
総合企画	進路指導	希望進路実現へ向けての系統的な指導と積極的取り組み	学年行事や各講演会に連続性を持たせ、生徒の進路決定の一助となるよう、内容や実施時期を見直す。				
			課外授業の公務員コース新設や土曜セミナーの時制・内容を見直す。				
			職員に対し外部講演会への積極的参加を促し、進路指導に対する意識を高めることで生徒に還元する。				
			学習支援クラウドサービスを活用し、3年次から5年次に家庭学習の習慣化、及び、生徒の活動履歴等を蓄積する。				
	進路指導業務の整理と見直し	高大接続改革方針に合わせた授業指導の転換と指導内容の研究	高大接続改革を意識した授業が展開できるよう研修を充実させ、教科へも情報を提供する。				
			「新たな学びプロジェクト」の研修を通じ、AL型授業と効果的な評価を職員全員が実践する。				
	図書・研修	学習指導要領に則した教科指導力の向上および新しい大学入試制度に即応した授業改善	校内での研究授業・公開授業を積極的に実施する。（校内での公開授業週間の設定や指導主事招聘授業の実施等）				
			県教育センターでの研修および他校視察（福教大附属中や近隣の中学の授業参観等を含む）へ積極的に参加する。				
			AL（アクティブラーニング）を中心とした指導力の向上を促す教科会議の設定や予備校等の研修会へ参加する。				
		生徒の知的チャレンジ体験活動の推進	日本の次世代リーダー養成塾、知の創造塾、九州大学FCSP等への参加を推進する。				
			前期課程対象の「プラチナ未来人材育成塾」等へ積極的に応募する。				
			進路講演会「21世紀を生きる」や「Asian Day」の取り組みを通じた国際理解教育を推進する。				
		人権教育の推進	職員研修会での人権教育に関する内容を設定する。				
			八女地区人権教育推進協議会の主催する各種研修会へ積極的に参加する。				
			県教育庁、県教育センター等の主催する各種研修会へ積極的に参加する。				
		図書室の蔵書の充実及び利用の促進	八女地区人権教育推進協議会の事務局担当校に向けて体制づくりをする。				
			新着図書の紹介や読書週間の実施を通して、読書に親しむきっかけを与え図書室の利用を推進する。				
道徳教育	道徳教育の充実	前期課程の道徳の授業を学年ごとに計画的に実施する。					
		学校行事等での体験活動を通して、道徳的な実践力を育成する。					
		全ての教育活動を通して、物事に積極的に取り組む姿勢や感謝の気持ちを育てる。					
	規範意識の向上	道徳の教科化に向け授業実践を記録に残す。適切な評価の仕方についても模索する。					
		服装、マナー、モラル等の指導を通して、規範意識の向上を図る。					
		マナー講演会や、各種体験活動等の行事を通して、実践的なマナー、モラルを身につけさせる。					
生徒指導	生徒指導	生徒会と連携した挨拶運動を通して、挨拶に対する意識を高める。					
		挨拶励行、正しい言動、校則遵守等、輝翔館生としての規範意識を日頃から徹底させる。					
		後期課程生が前期課程生を教導する場面を多く設定し、生徒集団の持つ自己教育力を育成する。					
	いじめの撲滅。（未然予防・防止、早期発見、早期対応）	携帯電話・スマートフォンの利用マナー徹底と、SNS等に対する正しい理解を育成する。					
		道徳や学級活動、LHR等を利用して、日頃から良好な人間関係の構築を推進する。					
		校内研修・講演等を通じて、教職員、生徒共にいじめを許さない意識を向上させる。					
	生徒の自主的活動（生徒会活動・委員会活動・ボランティア活動）の活性化。	アンケートを有効活用し、内容・方法についても適宜改定する。					
		生徒会と各クラス委員の意識と活動を活性化するため、毎月の常任委員会（前期課程）を実施する。					
		掲示板や生徒会通信等を利用し、活動状況（月間目標や反省、部活動報告等）を広報する。					
	保健・美化	生徒・職員の健康に対する意識を高め、心の健康も含めて、健全な学校生活を推進する。	職員の業務分担を明確にし、生徒指導業務の機能的な運営を図る。				
			保健委員会を中心に研究発表を成功させる。				
			教育相談委員会を通して学校に適應できない生徒への早期対応と職員の周知を徹底する。				
美しい校舎に誇りを持たせ、美化活動を活発化する。		スクールカウンセラー・訪問指導員との連携を密にし、不適應生徒に対して適切な援助をしていく。					
		美化委員（美化班）を中心に積極的な清掃活動及び、分別ごみ捨てのマナー向上を指導する。					
		年2回の美化コンクールを通し環境整備を意識し、日々の美化意識を高めていく。					
	清掃に積極的に取り組むと共に、清掃箇所の安全点検にも努める。						

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒指導	寮務	寮生自身がより良い居住環境を作れるよう態度及び資質の向上を図る。	自室の整理整頓を心掛けさせ、寮務班宿泊時に自室清掃の大掃除を実施する。（月1回程度）			
			貴重品ロッカーの使用、鍵の管理を適切に行うよう指導する。			
			下級生に対する指導や助言を寮長を中心とした上級生が主体的に行えるように指導する。			
			スマートフォン・インターネット使用に関する規則の整備			
		寮内での事故の発生を未然に防ぐ。	寮務班、生徒指導部、学年、管理人及び保護者と情報交換を積極的に行い、寮生の状況把握に努める。 防災避難訓練を実施し、非常時の寮生の安全確保に努める。			
		寮生活における寮生の充足感の向上を図る。	快適な寮生活の為に寄宿舎管理人、学校事務と連携して、適宜改善を行う。 寮生活に関するアンケートを実施し、ニーズを把握する。 寮行事に寮生が主体的に参加できるよう工夫する。			
第1学年	前期課程生としての基本的な生活習慣の育成を目指す。	基本的な礼儀作法を身につけさせる。 体育大会、文化発表会など、学校行事に意欲的に取り組ませる。 定期的に頭髪・服装検査を行い、輝翔館生としてふさわしい身なりを心がけさせる。				
		授業規律の確立し、学習習慣および確かな学力の定着を図る。	授業規律の徹底と学習方法の確立を目指す。 定期テストや各種検定に対する意識を高め、意欲的に学習に取り組ませる。 定期的に小テストや到達度チェックを行い、生徒の実態把握とその改善に努める。			
		安全で安心できる学校生活の確立と生徒一人一人に自己存在感を実感させる。	学校行事等を通じ、共感的な人間関係の育成と輝翔館への帰属意識を高める。 学校生活アンケートや面談を定期的に行い、個々の悩みの解消に努める。 保護者会・学年通信を利用し、教師と保護者で連携しながら子どもの育成を図る。			
第2学年	基本的な生活習慣の確立と心の成長	時間厳守・挨拶を常に意識させ、服装・頭髪に関しては、定期的な検査を実施する。 マナー講演会を実施し、その意義・重要性を理解させる。 道徳の時間を活用し、思いやりの心や公共心を深める。				
		落ち着いた学習環境作りと目的意識を持った家庭学習の定着	チャイム前着席を徹底し、気持ちを込めた大きな声で授業開始・終了の挨拶を行わせる。 シラバス、「今⇄未来手帳」やチャレンジノートを活用し、家庭学習の習慣化し、計画的な定期考査対策を講じる。 職場体験を通して未来や進路に目を向けさせ、学習に対する意欲を高める。			
		学校行事や校外活動への積極的参加と協力	学年で呼びかけて、学校行事や校外活動に積極的に参加する雰囲気をつくる。 体育大会、合唱コンクールを通して、クラスや学年をまとめるリーダーを育成する。 前期課程の中堅学年として、生徒会や部活動の中心となる意識を持たせる。			
第3学年	自らの将来について真剣に考え、目標実現のために必要な学力（知識・技能、思考・発信、協働する力）を身につけさせる。	Classiや「今⇄未来手帳」の活用で家庭学習の習慣づけを徹底させ、中学分野の十分な知識・技能を身につけさせる。 家庭学習や授業等で身につけた知識・技能を基に自分の意見や考えを持たせ、あらゆる場面で積極的に発信させる。 校外での知的体験活動の促進や授業での積極的な学びを通して、課題解決に向けて協働する力をつける。				
		社会人として必要な規範意識を身につけ、より良い成長を促す。	時間厳守・挨拶・礼儀を常に意識させ、頭髪・服装の検査を定期的に行い、規則やマナーの遵守を徹底する。 乳幼児ふれあい体験や道徳の時間を活用し、生命尊重の精神や態度、思いやりの心、正義感、公共心を身につけさせる。 学活の時間やClassi、「今⇄未来手帳」を活用しながら自分自身を振り返り、学校生活や家庭生活の中での課題解決に取り組ませる。			
		輝翔館生としての誇りと、前期課程最上級生としての自覚ある行動をとらせる。	知的チャレンジ活動やボランティア活動への積極的な参加を促し、リーダーの育成と文理選択につながる個々の進路意識の向上を図る。 生徒会活動や学年行事、学級活動を生徒に企画・運営させ、リーダーの育成を図ると共に、生徒全員の主体的に行動する意識を向上させる。 修学旅行等の校外での活動では、輝翔館生としての自覚と責任を持った行動をとらせる。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
第4学年	後期課程生としての自覚と責任感の育成	学校生活全般を通して、前期課程とは違うことを自覚させ、甘えずに高校生として行動するよう促す。			
		校則の遵守やマナー指導を通じて、規範意識を維持向上させる。			
	家庭学習習慣の確立と基礎学力の向上	年間を通して、出席率98%以上を目指し、1年間の皆勤生徒40名以上を目指す。			
		Classiを活用し、学年の平日の平均学習時間が2時間半以上になることを目指す。			
		成績上位層生徒のさらなるレベルアップと外部模試で英数国総合偏差値55以上20名以上、50以上40名以上を目指す。			
		成績下位層生徒に対する学習サポートを強化し、全員進級を目指す。			
様々な体験活動を通じた進路意識の高揚	知的チャレンジ活動やオープンキャンパス参加を通じて、個々の進路意識の向上を図る。				
	ボランティア講演会及びボランティア活動を通じて、奉仕の精神の涵養を図る。				
		Asiandayや海外の知的チャレンジ活動を通して、異文化交流及び異文化理解を深めることにより、国際的な視野を持った人材を育成する。			
第5学年	家庭学習習慣の確立と学力の向上	Classiを有効活用し、1日3時間の家庭学習時間の確保を目指す。			
		ALの視点に基づく授業を中心として各生徒の学習スタイルを確立させ、全体の学力の向上を目指す。			
		成績下位層生徒に対する個別指導を強化し、全員進級を目指す。			
	進路意識の向上と進路目標の具体化	GTECにおいてCEFR B1ランク以上を目指すために4技能をバランスよく育成する。			
		成績上位層生徒のさらなるレベルアップと外部模試3教科偏差値50以上30名以上を目指す。			
	社会に貢献できる人材の育成	知的チャレンジ活動やオープンキャンパスなどを通じて進路意識の向上を図る。			
各学校行事で中心的な役割を担わせることで、リーダーとしての自覚と責任感を養う。					
校則の遵守やマナー指導を通じて、規範意識の向上に努める。					
		高校2年生としてふさわしい生活習慣、適切な言動ができるよう指導する。			
第6学年	全ての生徒の希望進路の実現	進路行事の計画的な運営を通して、生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探求できるようにする。			
		二者面談・三者面談を継続して行い、進路面での適切な支援を行う。			
		学年通信の発行や授業を通して、多様な進路希望に応じた進路情報を提供し、情報を共有する。			
	進路実現にむけた学力の向上と学習習慣の完成	授業と家庭学習の連携を重視し、進路の目標に応じた学力の向上をめざす。			
		進路を意識した一年の計画を考えさせ、生徒自身の自主性を重視して学習習慣を完成させる。			
	社会に貢献できる人材の育成	生徒の希望進路や学力について学年・教科担当・部活動顧問等と情報を共有する。			
体育大会等の学校行事をとおり、リーダーシップの育成や伝え合う力の向上を図る。					
挨拶や清掃の徹底、服装やマナーの指導をとおり、基本的な社会的技能の自律的習得を図る。					
		卒業を意識させることで、最上学年にふさわしい言動を自律的に行わせるようにする。			
事務部	監査等の対応	条例、規則などの研修、研鑽に励む。			
		事務分掌における主任・副任において互いのチェック体制を強化する。			
		監査注意事項等を事務室全体で把握する。			
	予算の適正な執行・管理	備品等の購入については、必要性、緊急性を満たしているか考慮する。			
		旅費執行については、その必要性などを協議し決定する。			
	学校内外に対する接遇	私費会計についても適切な管理に努める。			
外部との交渉については誤解が生じないような説明に心がける。					
職員の対応にあつては不満を持たれないよう、相手の意見を十分に聞く。					
		電話対応は事務室が最初に対応するので正確に努める。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
組織 マネジメント	教職員の協働および学校経営への参画	本年度の学校重点目標を意識するとともに教育の質を向上させるために、学校経営会議や小委員会の充実を図る。			
		各分掌・学年の教育指導計画をP D C Aサイクルで推進させる中で、C Aを意識させる。			
		運営委員会で先を見通した起案の徹底を図る。			
	危機管理体制の確立	主幹等会を充実し、情報や意思の疎通を十分に図る。			
		事故防止のため、学校施設・設備の点検を1日1回は行う習慣を全職員で持ち、不備があればすぐに報告をあげ、危険の未然防止に努める。			
		危機管理マニュアルの内容を職員に周知し、緊急体制、医療体制、緊急事態の記録、迅速な連絡・対応など緊急時の対応を常に確認する。			
	教職員の不祥事防止、服務規律の確保と働き方改革の推進	校内研修等を通して教職員としての服務規律を確保する意識を高めたり、不祥事防止の意識喚起を行ったりする。			
		毎週月曜日の定時退校日等の推進による勤務時間の縮減を図る。			
		AUDIT（飲酒習慣スクリーニングテスト）を定期的実施する。			